

日本の教会に響く歌

宣教国である日本はキリスト教受容の歴史において、はじめは宣教師によってもたらされた外国曲を用いていました。

キリスト教2000年の聖歌伝統は、この地で信仰を守る日本人信徒にどのように継承されてきたのか。

教派を超えて典礼の豊かさ、信仰の遺産の受容に関して考えていきましょう。



あめのみつかいの『日本聖詠』版

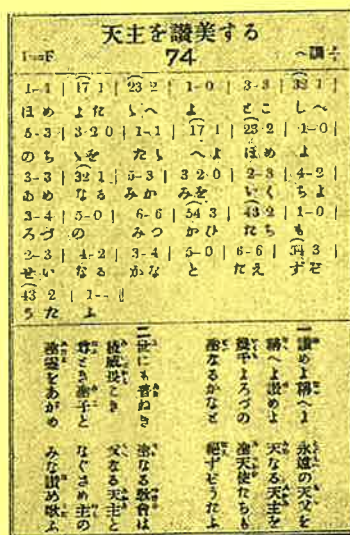
まつはし き こ
講師 松橋輝子

(講師 略歴)

東京藝術大学音楽学部楽理科卒業、同大学院音楽研究科音楽文化学専攻音楽学研究分野博士課程修了。2022年3月に博士号(音楽学)取得。卒業時にアカンサス音楽賞、同声会賞受賞。イエール大学にて研鑽を積む。2019年度カトリック大学連盟奨学生。2020年4月から2022年3月まで日本学術振興会特別研究員(DC2)。

現在、東京藝術大学非常勤講師、桜美林大学非常勤講師、日本女子体育大学非常勤講師を務める。

主著に『日本の教会に響く歌——カトリック会衆歌の系譜と意義』(桜美林大学叢書、2025年9月)、論文に「カトリック教会の会衆歌の歴史」「近年の研究動向からみる日本におけるキリスト教音楽研究の行方」(共著)他がある。キリスト教系のウェブマガジン「AMOR—ひだまりの丘」において「聖歌の宝」を連載中。



われ神をほめの「公教會聖歌集」版

〜日本語で賛美するということ〜

日時：2026年2月22日(日) 午後3時
場所：聖グレゴリオの家聖堂
入場料：1000円
協力：聖グレゴリオの家 聖歌隊

予約・問い合わせ：聖グレゴリオの家 宗教音楽研究所 〒203-0004 東京都東久留米市氷川台 2-7-12

TEL 042-474-8915 FAX 042-474-8832

E-mail info@st-gregorio.or.jp